



繋ぐ一枚

日本とモロッコを

GOSHIMA
- CARPETS -



最高品質の絨毯と 新潟の手仕事展

感性を育むモロッコと日本の手仕事

Connect Japan and Morocco.

モロッコ王室御用達工房で手織りした

最高品質の絨毯「GOSHIMA (ゴシマ) 絨毯」。

私たち三方舎は、世界で一番、最高品質の絨毯をお届けします。

この度、優れたデザイン性とモロッコでの絨毯産業の復興・継承活動が
高く評価され、2015年度グッドデザイン賞を受賞しました。

受賞を記念した「GOSHIMA 絨毯」の展示発表受注会と、新潟の
作家による手仕事の作品を一堂にご覧になれる特別な展示会です。

2015 11.21(土) → 11.25(水) 10:00 - 18:00

[会場] 松本市 中町・蔵シク館にて
長野県松本市中央2丁目9-15 (松本駅より徒歩10分)



GOOD DESIGN
AWARD 2015



グッドデザイン賞 2015を受賞。

[審査員の評価コメント]

一目で惹かれる。説明を聞いてなお惹かれる。黒い羊と白い羊の毛であると聞いてなお惹かれる。それが日本の床で暮らすという様式の復活を望んでいるのであれば、それは壮大で実に素晴らしい企みである。



WEAVE

モロッコ王室御用達工房で、緻密に織り上げられた絨毯は、極上の柔らかさと美しさを誇ります。



DIE

失われたモロッコの伝統的な草木染めの技術を復興し、誕生したGOSHIMA 絨毯。自然の繊細な色合いに心が和みます。



HISTORY

みんなが集まるリビングに敷かれた絨毯は、何十年の間家族の歴史を刻んだ掛け替えのない宝物になるでしょう。



LIFE

上質だからこそ、何世代にも渡って使い続けられる。ひとつのものを大切にする心を育みます。



GOOD DESIGN
AWARD 2015

モロッコの伝統と、 日本の感性を融合したデザイン

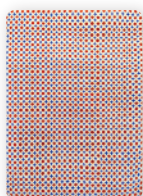
GOSHIMA 絨毯は日本人デザイナーがデザインを開発。古くからモロッコをはじめイスラム圏の建築では、この世界への尊敬と願いを込めて幾何学模様が描かれてきました。そのゼリージュと呼ばれる文様の想いを踏まえ、私たちの暮らしに馴染む日本の感性を融合させました。モロッコの伝統と、日本の感性の調和は日本の住居と気持ちよく馴染みます。

デザインの一例



SIPPOU

幾何学模様の調和の連なりが悠久の願いと呼応するSIPPOU。モダンな表情をみせるモノトーンは、染めていない原毛によるもの。その繊細な漆黒が絵柄の魅力を深く支えます。



APRICOT

ゼリージュの持つ快活な可愛らしさが暮らしを彩るAPRICOT。



TAWARA

幾何学の力を引き出す深みある紅色がモロッコの草木染めの魅力を永く感じられる仕上がりです。和の設えにも馴染む、深く落ち着いた魅力が特徴の作品。



medallion/CIRCLE

モロッコを代表するモスクにも使用されているメダリオン・ゼリージュの美しさと共に、シリーズの魅力を端的に表す作品。

今回の展示会では、上記以外のさまざまなサイズ・デザイン・色の絨毯をご覧になれます。サイズは230cm×180cm(2.7畳)のものから、35cm四方のチェアサイズまで、豊富なラインナップからお選びいただけます。また、ご希望のサイズでの受注製作も承っておりますのでお気軽にお問い合わせください。

日本のアートギャッベブームを牽引してきた実績。

世界に誇れる上質なモノづくりの企画・販売「三方舎」 代表 今井 正人

2002年、ギャッベの最高峰ブランド「ZOLLANVARI GABBEH」の選定買付を本格化させました。現地で一枚一枚、自分の目で確認し、心に響くものだけを選ぶ。その選ばれしギャッベを「アートギャッベ」と名付け、日本に紹介する活動を行ってきました。現在のギャッベブームを牽引してきた実績を、今、新たに「GOSHIMA 絨毯」へと注ぎ、世界で一番の「上質」な絨毯を追求しています。



Sanpousha

[同時開催] 新潟の手仕事の作家による展示

在廊日： 会期中は、両作家とも毎日・終日在廊しております。

手作りの盆栽鉢と季節の植物

秋から冬の実物や常緑の樹々を小さな盆栽に仕立てて展示します。現代の住環境に自然に融け込む盆栽たちです。

陶芸家・盆栽作家 高橋 星児

新潟市江南区で自作の鉢を作り、小品盆栽を育てる。和の植物、樹、山野草を中心にした小品盆栽を暮らして楽しむことを提案している。

www.bonsaiyatoki.com

Facebook ぼんさい屋とき



鋳起銅器

鋳起銅器とは、新潟県燕市に伝わる伝統工芸。一枚の銅板を金鋳で叩き起こし器にしてゆきます。使い続けていただく事で、手擦れなどで器の色も深みを増してゆきます。その方それぞれの色艶になる鋳起銅器です。

鋳起銅器職人 大橋 保隆

1975年、鋳起銅器職人の次男として生まれる。22歳で鋳起銅器の老舗玉川堂に入社。10年の修行の後、独立。お客様にもその器を通して想像力と感性を育めるような鋳起銅器づくりを目指します。

Facebook 鋳起銅器職人大橋保隆



| ACCESS / CONTACT

[会 場] 松本市 中町・蔵シツク館

長野県松本市 中央2丁目9-15 (松本駅より徒歩10分)

TEL. 0263-36-3053

www.mcci.or.jp/www/kurassic/

中町蔵シツク館

[主 催] 三方舎

新潟県新潟市秋葉区新津本町3-3-12

TEL. 0250-25-3939 www.sps-i.jp

さんぽうしゃ